

夢かなってク通信

～ かなテク西部に入校し、自分の夢をかなえた方のメッセージです ～

『主軸を持つ』ということ

室内設計施工コース A・Tさん (19歳 男性)

皆さんは、ひとつのことにずっと継続して取り組んだという経験はありますか？

私は、5歳から高校卒業までの13年間、ひたすらサッカーに打ち込んできました。

サッカー選手をあきらめ「サッカーと同じくらい夢中で打ち込めるものは何だろう？」と考えた私を惹きつけたのが“内装仕上げ”という仕事でした。

オープンキャンパスや体験入校に参加し、“職人になりたい自分”への確信を深めました。

訓練では、壁仕上げや床仕上げ、電気配線、給排水の配管工事、インテリア図面作成や大工仕事など学んでいます。

将来的には、「壁張りと言え、A・T。」と言われるようになりたいと考えています。

皆さんは、ひとつのことにずっと継続して取り組んでいる、または、過去に継続して取り組んでいたという経験はありますか？

私は、5歳から高校卒業までの13年間、ひたすらサッカーに打ち込んできました。小・中学校時代は、クラブチームに所属し毎日のように練習していましたし、高校では、サッカー強豪校に進学し寮生活でしたので、とことんサッカーを中心とした生活でした。朝は起床してから、1時間の朝練ののち朝食。学校へ行き、放課後には部活でみっちり練習して7時半頃帰宅。夕飯を食べて、さらに1時間ほどトレーニングしてから入浴して寝る、という毎日を送っていました。

その頃の私は、「将来はサッカー選手になりたい」というストレートな夢を思い描いていました。しかし、全国から同じ夢を持ったサッカー自慢達が集まるなか懸命に努力しましたが、プロ選手を目指すレベルというものを思い知ることになります。それでも、「自分がサッカー選手になれなくても、私と同じようにサッカーが好きな子ども達を応援できるよう中学の先生になろう。」と考え、サッカー推薦で教育学部を目指すことも検討しましたが、様々な制限があり、叶えることは出来ませんでした。

私は、改めて将来を考え直すこととなったのです。「サッカーと同じくらい夢中で打ち込めるものは何だろう?」「夢中で努力して、自分自身に誇れる技術を身につけたい!」「その身につけた技術で喜んでくれる人がいる仕事なら、サッカーしているときのように熱くなれるんじゃないか?」と考えました。そして、私を惹きつけてくれたのが“内装仕上げ”という仕事でした。

私がサッカー一筋に打ち込めるよう応援し続けてくれた両親は、内装仕上業を営んでいます。二人とも、進学希望はありながら大学まで進んでいません。なのに、私が自分の夢を追いかけられるよう大学進学まで応援し続けてくれました。そんな両親に、私なりの恩返しができないかと思ったことがきっかけです。

改めて、技術者として映る父は、壁張りでも床仕上げでも、電気工

事でも大工仕事でも内装に関わる仕事は何でも仕上げてしまいます。その専門職としての姿が、とてつもなくカッコ良く、まず、私を刺激しました。そして、その仕事を見て喜び感謝してくださるお客様の笑顔と、対面している父の笑顔が、とても嬉しそうだったことも印象強く心に響きました。小さい頃から当たり前目にしていた光景は、大変な努力と細やかな気遣いが積み重ねられたものだという大切さに、私は気付きました。

「内装仕上げの職人になりたい。」そのことを父に伝えると、「県立の技術校がある。業界でも、そこの出身者が多くいて、いい仕事をしている。じっくり学んできたらどうか。」と提案してくれました。早速、情報収集してオープンキャンパスや体験入校に参加し、“職人になりたい自分”への確信を深めました。入念な準備をして入校選考に臨み、合格をいただき、私の二つ目の夢である“内装仕上げ職人”への第1歩を始めることができました。

現在、西部校の室内設計施工コースで訓練を始めてから7ヶ月が経ちました。本格的に訓練がスタートした6月から、壁仕上げや床仕上げ、電気配線、給排水の配管工事、インテリア図面作成や大工仕事など、とてもたくさんのことを学んできました。学んだことを帰宅すると、両親によく話します。次々と新しい技術を覚えていく私の話を、2人とも「うん、うん、そうか。そんなこと、覚えたか。」と熱心に聴いてくれていました。

そんなある日、父に「それで、何の仕事が一番楽しいんだ？」と尋ねられました。「どの仕事も楽しいよ。」と答えると、「何でも出来ることは大切だけど、誰にも負けない得意分野があるといいな。」と言われました。この言葉は、技術校の担任の先生にも常々言われていたことでした。「県内に数ある内装工事業の中で、『この仕事はあの職人さんじゃないと』とご指名を受ける特徴を持つことが、ニーズの高い

仕事に繋がりますよ。」と入校当初からアドバイスされてきました。

技術校には、プロの職人をしている講師の先生が何人もいらっしゃいます。どの方も、業界のトップレベルの職人さんだと伺っています。その手さばきは鮮やかで、それでもなお、あらゆる現場に対応できる技術を探求し続ける姿勢の凄さに心から憧れます。どの仕事も魅力的で興味を惹かれましたが、どんな専門性が自分に適しているのか模索する日々でもありました。

年が明け、技術校生活も残り3ヶ月となった今、私は、多能工になるための就職活動をしています。たくさんの工事を1人でこなす父の背中を追いながらも、将来的には、誰にも負けない「自分の主軸となる得意分野を持ちたい」と考えています。では、何を主軸とするか？技術校生活を振り返って、「自分の夢をかけたい」と思うだけの達成感を感じたのが、壁仕上げ施工でした。主流のビニール壁紙だけでなく、技術校では、和紙系壁紙や織物壁紙の張り方も学び、壁仕上げは奥が深いなと感動したからです。そんな壁仕上げ施工を自分の主軸にもちたいと決意しました。「壁張りと言えば、A・T。」と言われるよう、技術を極め、仕上げられる壁紙のバリエーションを広げていきたいと考えています。

幅広い経験値を持ちながらも、自分が誇れる主軸をもつ職人を目指したいと考えるきっかけをくれた父を、憧れの先生方を、いつかは超える職人になりたい！残りわずかではありますが、技術校で腕を磨き、たくさんの人に喜んでもらえるよう努力を続けたいと思います。